

200号 昭和49年3月10日発行



表紙は茶路中学校の3年生11人による卒業記念作品制作の様子。この頃は飲酒運転や無免許運転が多発しており、交通安全についての特集が組まれていました。また、昭和48年に始まった「農業祭」の記事が掲載されていました。野菜の格安販売や家畜動物園、乗馬体験などが行われ、約3千人が来場する大イベントでした。同年には「第1回産業まつり」が開催されるなど、昭和40年代には農業や漁業などの基幹産業に関わるイベントが多く開催されていました。



PICK UP 284号 複雑な住所表示を一本化し、分かりやすい地名、地番に改めるため、昭和54年に字名改正が行われ、現在の「〇条〇丁目」の形式になりました。

300号 昭和54年7月15日発行



表紙はアイヌ弔魂碑の地鎮祭の様子。東山公園に建立された弔魂碑の前では、アイヌ三大祭りの「ふるさと祭」が行われています。300号には、町総合体育館の建設について掲載されていました。総合体育館が完成するまで、町内にはさまざまなスポーツに対応する施設がなかったことから、総合体育館の建設は町民の長年の夢でもありました。昭和55年に総合体育館が完成し、その際に広報で組まれた特集には、町民の喜びの声が掲載されました。



PICK UP 393号 本町は、昭和58年に開基百年を迎えました。現在の役場庁舎はそれに合わせて建設され、完成するまではプレハブの仮庁舎で仕事をしていました。

400号 昭和58年9月15日発行



表紙は、町内会対抗婦人ソフトボール大会の様子です。家族総出で応援に来るなど、大変人気のイベントでした。400号が発行された昭和58年は、白糠線の廃止が決定した年ですが、町内ではさまざまなイベントが開催されていました。白糠駅から300人の乗客を乗せた「ピヤホール列車の旅」では、積み込まれた1000本以上のビールがあっという間に消えたとか。発展的解消をする白糠線に暗いイメージはありませんでした。



PICK UP 449号 特集「シカとカカシとファッションショー」。暁の畑には「いつも人がいっぱいいる」と風のうわさを聞いて広報係が調査。正体は鹿よけのカカシが服を着ている姿でした。